

美幌町公共下水道事業経営戦略 (概要版)

計画期間:令和8(2026)年度～令和17(2035)年度

1. 経営戦略の概要

経営戦略とは、急速な人口減少等に伴うサービス需要の減少や施設の老朽化に伴う更新需要の増大等、厳しい経営環境に置かれる公営企業が、将来にわたり住民生活に必要なサービスを安定的に提供していくことを目的として、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上のために策定する中長期計画です。

当町は、平成28年度に初めて経営戦略を策定しました。その後、令和5年度より地方公営企業法の適用(法適用)により複式簿記を導入し、経営・資産の状況の「見える化」を行うことで、将来にわたり住民生活に必要なサービスを安定的に提供していくための土台を整備してまいりました。

前回経営戦略が最終期間を迎え、法適用によって経営・資産の状況がよりの確に見えてきたことから、改めて現在の状況を振り返り、将来にわたり住民生活に必要なサービスを安定的に提供していくことを目的として経営戦略を策定します。

なお、本計画の対象事業は公共下水道事業、特定環境保全公共下水道事業であり、対象期間は令和8年度～令和17年度の10年間とします。

2. 事業の概要、課題

(1) 現状分析

令和7年度に作成した令和6年度数値を用いた経営比較分析表及び決算統計を用いて以下の区分との比較を行いました。なお、公共下水道事業については、道内の類似団体*との比較も実施しています。

・全国類似団体…処理区域内人口区分、処理区域内人口密度区分及び供用開始後年数別区分に基づく分類で示される「全国類似団体区分」

・道内団体(公共下水道事業のみ)…全国類似団体のうち、北海道にあり下記条件を満たす団体

- ① 地方公営企業法について全部適用をしている
- ② 分流式を適用しており、流域下水道への接続を行っていない
- ③ 現在処理区域内人口が10,000～20,000人に該当する

【公共下水道事業】

区分	水洗化率	経常収支比率	経費回収率	汚水処理原価	流動比率	有形固定資産 減価償却比率
美幌町	95.39%	99.52%	86.60%	239.43	54.28%	66.48%
全国類似団体平均	90.79%	105.50%	90.78%	170.83	73.93%	28.47%
道内団体平均*	92.20%	100.90%	95.70%	236.8	100.60%	24.30%

*道内団体平均値は令和5年度の数値となります

【特定環境保全公共下水道事業】

区分	水洗化率	経常収支比率	経費回収率	汚水処理原価	流動比率	有形固定資産 減価償却比率
美幌町	83.96%	99.00%	99.00%	477.72	69.22%	66.48%
全国類似団体平均	84.21%	106.38%	66.63%	252.17	53.28%	27.46%

(2)課題

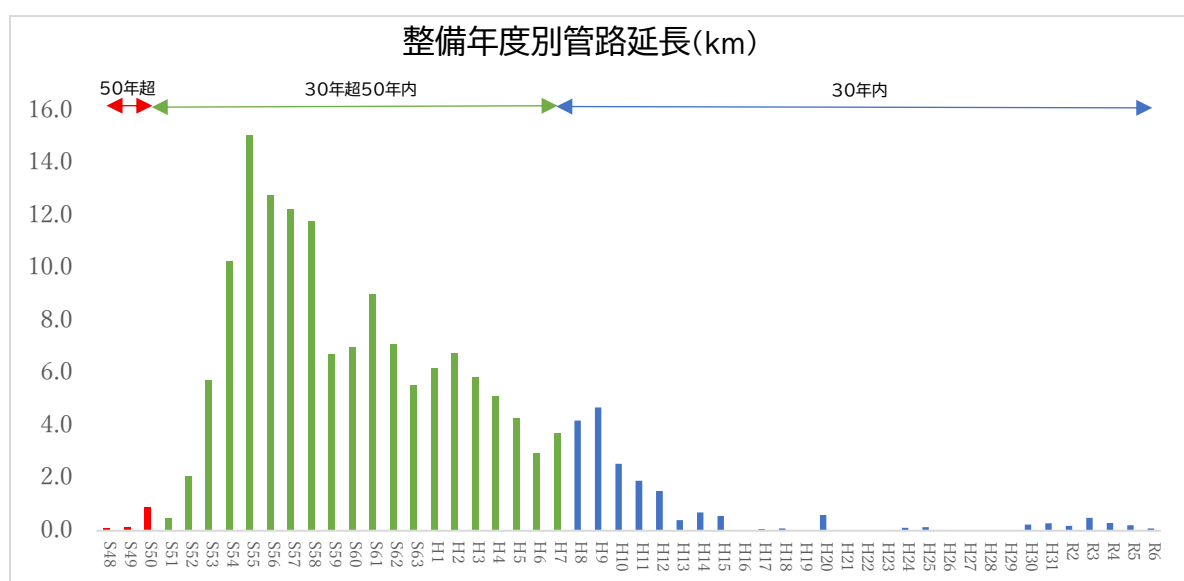
現状分析の結果、課題は下記のとおりです。

- ① 水洗化率は平均と同等、ないしは上回っており、普及率も高いことから、今後有収水量が増えていくことは期待できない
- ② 汚水処理原価が全国類似団体平均、(公共)道内類似団体に比べても高い状況にあり、経費回収率も100%を下回っているため、使用料収入の増加、ないしは経費の節減が必要である
- ③ 流動比率が100%を下回っており、財務の安定性に留意が必要である
- ④ 老朽化比率が高く、計画的な更新投資が今後必要となる

3.施設の状況

(1)管渠の現状

公共下水道事業の令和6年度末時点における管路整備延長は約164kmであり、このうち法定耐用年数である50年を経過したものは約0.2km(全体の0.1%)です。一方、供用開始後、30~49年を経過したものは約140.7km(全体の85.6%)あります。最も管路が延長されたのは昭和53年度~昭和62年度であり、施設の老朽化が進んでいることから計画的な更新投資が必要となります。



(2)処理場の現状

美幌下水終末処理場は、昭和56年10月に供用を開始し、増設等を経て、令和7年度に45年を経過する施設であり、老朽化が進んでいます。

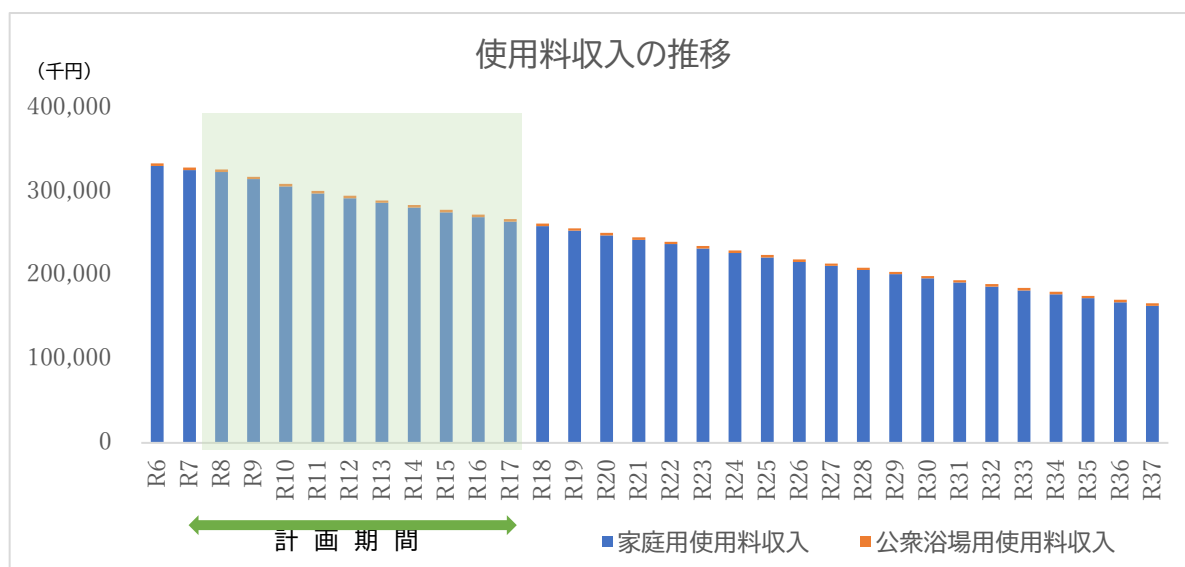
今後の更新需要が増えていく見込みであることから、必要な更新を計画的に進めていくため、ストックマネジメント計画に基づいて経費の平準化やダウンサイジングの検討に努め、より効率的な改築更新に取り組む必要があります。

名称	美幌下水終末処理場	
位置	美幌町字報徳 79 番地の 1	
下水排除方式	分流式	
処理方式	水処理	標準活性汚泥法
	汚泥処理	濃縮→消化→脱水
能力(m ³ /日)	計画 1 日最大処理汚水量	8,210
	処理能力 水処理	9,750(旧系 7,500,新系 2,250)
供用開始年月	昭和 56 年 10 月	
焼却炉(溶融炉)の有・無	無	
コンポスト化施設の有・無	無	

4. 今後の予測

(1) 使用料の予測

使用料収入は、令和 6 年度の使用料単価(家庭用 237.8 円/m³、公衆浴場用 48.8 円/m³)に各年度の有収水量見込を乗じて推計しています。その結果、有収水量の減少に比例して使用料収入は減少していき、計画最終年度である令和 17 年度においては 267,245 千円(令和 6 年度実績は 333,812 千円)となる見込です。



5. 経営目標

具体的な目標として、経常収支比率については、中間時点である令和12年度で100%を超えることを目指し、その後100%を維持することを目標とします。

また、経費回収率は令和6年度時点で95.9%であり、令和8～12年度の平均は、93.47%となります。今後、使用料収入の改定を行わない場合、最終年度である令和17年度には74.46%となる見込みとなり、大幅に下落することが想定されます。そのため、経費の節減に加え、使用料の改定に関する議論は令和8年度より開始し、経費回収率の維持・向上に向けた議論を進める予定です。

なお、令和9年度において、仮に使用料単価を20%上昇させた場合、料金収入が増加する一方で、同程度の基準外繰入金が増加することとなるため経常収支への影響は限定的ですが、基準外繰入の減少により独立採算の原則により準拠した経営を行うことが可能となります。また、経費回収率は令和8年度～12年度の平均で100%を超えますが、その後人口減少に伴い、再び100%を下回ることとなります。

6. 経営戦略の取組体制

本戦略で定めた事項については、毎年度、経営戦略の取組の進捗状況及び達成状況について、決算確定後、速やかに確認・検証を行い、決算数値や指標等を用いて進捗状況の管理及び評価・分析を行うとともに、PDCAサイクルを活用し、新たな課題や周辺環境の変化を反映しながら、定期的な見直しを行うことにより継続的に改善を図ります。

また、経営戦略の見直しについては、本町における下水道事業を取り巻く環境の変化を的確に捉えるため、3～5年毎に行います。

なお、毎年度行う確認・検証の結果、本戦略と実績の乖離が著しい場合には、見直しの目安の時期に限らず、随時見直しを実施します。

【発行】美幌町建設部上下水道課

〒092-8650 北海道網走郡美幌町字東2条北2丁目25番地

Tel:0152-77-6554 Fax:0152-72-4869